

# JESUS 316

## イエスとは何者か。

**イエスとは何者か。**聖書はこの問いに唯一現実的な答えを与えてくれます。使徒パウロは書いています。「聖書はすべて神の靈感によるもの」(2テモテ 3:16)。創世記から黙示録まで、神の靈感による聖書は、永遠の過去から永遠の未来に至るまで、イエスこそ神である、と教えています。聖書は、イエスこそ「今おられ、昔おられ、やがて来られる方」であり、「アルファであり、オメガである」(黙示録 1:8)と宣言しています。聖書は、イエスを神であり、創造主であり、偉大なる羊飼いであり、主であり、贖い主であり、神の子羊であり、主の主であり、王の王であり、インマヌエル(神が私たちとともにおられる)であり、救い主であり、大祭司であり、復活でありいのちである、と教えています。

**イエスは創造主でした。**「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった…すべてのものは、この方によって造られた…ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である」(ヨハネ 1:1~14から抜粋)。「なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました」(コロサイ 1:16から抜粋)。

**イエスは「わたしはある」です。**イエスは、主から遣わされた者であり、出エジプト記3章(～紀元前1450年)に出て来る燃える柴から「『わたしはある』という者だ」と宣言されました。ヨハネの福音書8章でイエスは、アブラハムが生まれる前(～紀元前2100年)から、ユダヤ人たちが存在するより前からご自分は「わたしはある」なのだと言われました。ユダヤ人たちはこのことを、イエスが自分を神だと言ったということだと捉え、石打ち刑にしようとしていました。後に、イエスは「わたしと父とは一つです」(ヨハネ 10:31)と言っておられます。ここでもユダヤ人たちはイエスを石打ちにしようとしていました。

**イエスについては旧約聖書に書かれています。**イエスについては旧約聖書に書かれています。ヨハネ1章18節や6章46節にあるように、父なる神を見た人は誰もいません。しかし、いわば受肉する前のイエスである神は、ベツレヘムで生まれる前に、旧約聖書において何人かの人たちに現れました。創世記16章と21章ではハガルに対して主の御使いとして現れ、出エジプト記3章ではモーセに、士師記6章ではギデオンに、士師記13章ではサムソンの両親に現れています。また創世記18章と22章ではアブラハムにも現れ、創世記31章と32章ではヤコブにも現れました。そして(紀元前700年頃書かれた)イザヤ書48章12~19節では、三位一体の一位格としてイエスは言及されています。

**イエスこそ予言されていたメシアでした。**何百年も前に、旧約聖書の300を超える預言が、イエスの誕生、人生、死を語っています。こういった預言のいくつかが見られる詩篇22篇には、十字架刑の悲惨な様子が書かれています(紀元前1000年頃、石打ちが処刑方法だった頃に書かれました)。詩篇22篇の預言の成就是マタイの福音書27章に記録されています。

**イエスは神一人になりました。**預言者イザヤは、「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる」(イザヤ 9:6)と預言しました。イザヤは、その子こそ全能の神であるとしました。永遠の御子が、ベツレヘムで男の子として生まれたのです。「神の子」という称号は、出生よりも地位を表しています。ベツレヘムで生まれた時に、この世に存在するようになったのではないからです。使徒パウロは書いています。「キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました」(ピリピ 2:5~8)。イエスは神であられるのに完全な人となられました。人類の歴史が始まるより前に存在しておられた永遠の御子が、天から降って人となられたのです(ヨハネ 3:13, 31, 6:33~38)。イエスは神であり、同時に人でした。

**イエスは奇跡を行われました。**行われた奇跡の多くが新約聖書に書かれています。そのうちの3つが劇的にイエスの主張を裏付けました。奇跡によって5000人に食べ物を与えられた時、「わたしがいのちのパンです」(ヨハネ 6:35)と言われました。目の見えない男を癒された時は、「わたしが世にいる間は、わたしが世の光です」と言われました(ヨハネ 9:1~8)。さらに、「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです」(ヨハネ11:25)。と言われてから、死んで4日経っていた友人ラザロの墓に向かわれ、彼をよみがえらされました。イエスは、病人、身体が不自由な人、耳の聞こえない人、口の聞けない人、ツァラアトに冒された人、悪霊に憑かれた人々を癒されました。水をワインに変えられ、水の上を歩かれ、海を鎮められました。マタイの福音書9章2~7節は、人々が中風の男をイエスの元に連れてきた話を伝えています。

イエスは男に「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」と言われました。宗教指導者たちは、これは冒涇だと考えました。罪を赦せるのは神だけだからです。イエスは尋ねられました。「『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために——。」そう言って、それから中風の人に「起きて寝床を担ぎ、家に帰りなさい」と言われた。すると彼は「起き上がり、家に帰った。」

**イエスはご自分が神であると証明されました。**イエスはご自分の誕生、人生、死についての預言を成就されました。多くの奇跡を行って、ご自分が神であると示されました。権威をもって教えられました。「イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。イエスが、彼らの律法学者たちのようではなく、権威ある者として教えられたからである」（マタイ 7:28~29）。そしてイエスは罪なき人生を送られました（ヘブル 4:15、1 ペテロ 2:22、1 ヨハネ 3:5）。罪なき神一人イエスは、完璧な神の子羊として、十字架上で私たちの罪のために捧げられました。「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため」（1 ペテロ 2:24）。

**イエスは十字架につけられ、死者の中からよみがえりました。**「ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、傷もなく汚れない子羊のようなキリストの、尊い血によるのです」（1 ペテロ 1:18-19）。「人々はこのイエスを木にかけて殺しましたが、神はこの方を三日目によみがえらせ、現れさせてくださいました。預言者たちもみなイエスについて、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられると、証しています」（使徒 10:39-40、43）。「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」（1 コリント 15:3-4）。イエスは墓からよみがえり、多くの目撃者の前に現れ、それから天に帰られました。

**イエスだけが神への唯一の道です。**イエスは言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません」（ヨハネ 14:6）。使徒ペテロは言いました。「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです」（使徒 4:12）。使徒パウロは書いています。「神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自分を与えてくださいました」（1 テモテ 2:5-6）。神に至るイエスという道は、他の全ての宗教とは異なります。他の宗教は、罪の問題への解決を何も与えてくれません。ただ、それぞれの宗教によって異なる善悪の定義に従って大体善いことをすれば、神々は罪を見逃してくれて、天国に入れてくれるかもしれないと教えているのです。イエスの道は、イエスを信じることによって、あなたの罪が十字架の上で支払われ、赦されるというものです。イエスと共に、赦されたあなたは天国に向かいます。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ 3:16）。

**イエスは再び来られます。**イエスは言われました。「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです」（ヨハネ 14:1~3）。聖書の最後の言葉として、イエスは言われています。「しかり、わたしはすぐに来る」。使徒ヨハネは、それに「アーメン。主イエスよ、来てください」と付け加えています（黙示録 22:20）。もしイエスが今日再び来られたら、あなたはイエスに会う準備ができていますか。[www.Gospel316.org](http://www.Gospel316.org) にアクセスし、イエスを信じ神に赦され、その準備ができていますかどうか確認してください。

**イエスは、永遠の過去から永遠の未来に至るまで神であります。**

**人はその御名に驚き、膝をかがめるのです。**